

# 木の一句

## 名句鑑賞

雪どけの中にしだるる柳かな

遅い北国の春がようやくめぐってきました。雪解けの中、柳の木の枝には、早くも新芽がふいています。季語は「雪解け」で、春の句です。

芥川龍之介



夏深き木々の梢を窓に置き

ふと外を見ると、向こうには窓いっぱいうつそうと繁る深い夏の木立が広がっています。季語は「夏深き」です。

中村汀女

棕鳥や梢にあふれ飛ぶ四五羽

大きな木にたくさん群れ集まる棕鳥。枝が揺れて四五羽があふれるように枝先から飛び立ちました。季語は「棕鳥」で、秋の句です。

水原秋桜子

枯木立月光棒のごときかな

冬になり、葉が枯れ落ちた木立の間から、月光の影がもれ、まるで光の棒のように静かに並んでいます。季語は「枯木立」で、冬の句です。

川端茅舎

## 比喩について

一枚の餅のごとくに雪残る

川端茅舎

【鑑賞】雪がやみ、次第に雪が解け始めても、庭には、「餅のように白い雪」が残っていて、太陽の光を浴びて輝いています。

比喩というのは、「・・・のよう」「・・・みたい」のように、ものをたとえることです。比喩を用いることによって、直接的な表現よりも、そのものの情景やようすなどを、よりわかりやすく表現することができます。

また、みんなが思いつかないような「たとえ」、新鮮さのある「たとえ」ができたとき、句がいつそうひきたちます。



# 子どもの俳句から

春

父さんのかたで見上げたさくらの木

小学生  
藤井

魁

しゃぼん玉やさしくふれた木の芽たち

中学生  
鈴木

正敏

青嵐この山ひとつうら返し

夏

中学生  
中村

由美

夜の森月の光を持ちあげる

秋

中学生  
菅谷

健太

# 鑑賞のポイント

☆「かたぐるま」をしてもらったら、急に背が伸びた気がするんだなあ。季語は、「さくら」です。

☆たくましく太い木でも、木の芽の色や形は、とてもやさしい感じがします。季語は、「木の芽」です。

☆新緑の季節を迎えて、春から夏に山も衣替えをするのかな？季語は、「青嵐」です。

☆あかりも何もない、まっくらな森の中って別世界だよ。季語は、「月」です。

冬

松ぼっくり寒くて体をとじている

小学生

石原 大貴

鑑賞のポイント

☆寒い日には、体を縮めてじっとしていたい時があります。松ぼっくりもそんな気分でしょうか。「寒し」「寒さ」は冬の季語です。

雑

年りんのかずだけ生きたあかしかな

小学生

桑村 卓弥

☆一年に一つずつ輪を刻んでいく年りん。私たちの体にも、年りんのようなものがあるのかな。

ぼんさいとはなしができるおじいちゃん

小学生

粕田 智子

☆ぼんさいを手入れしているおじいちゃん顔って、とてもうれしそうだね。

檜とは日に授かりし名の木かな

中学生

鈴木はる奈

☆檜は、まっすぐに高く伸びる木で、においもとてもいいんだよ。



